



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 1月号

令和6年1月9日

横浜市立青木小学校

学校は希望の光 ―子どもたちが集う素晴らしさを感じて―

校長 後明 好美

横浜が天候に恵まれた元旦を迎えた新年、石川能登で大地震が発生しました。犠牲となられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々、その御家族、関係者の皆様に御見舞い申し上げます。そして、一日も早く日常が戻ることを心から願っています。

150周年を迎えた青木小が、160周年に向けて新たな10年へと踏み出す年が始まりました。着任して以来、地域の皆様、PTCA本部役員様をはじめとする保護者の皆様とお話をさせていただく中で、皆様がこの青木小を深く愛し、力強く支えてくださっていることを実感しています。そのような中で学び、皆で伝統を刻んでいくことができ、幸せな学校・幸せな子どもたちです。

まちの希望が集う 学校

今般の地震から思い返しますと、東日本大震災が発災したのは、昨年の一と回り前の2011年でした。当時3年担任として本校に勤務していた私は、あの日の寒くどんよりとした天気と、日頃の避難訓練の通りに行動できた素晴らしい子どもたちの姿、そして校庭に避難した後「怖かった・・・。」とつぶやきながら静かに泣く子を、自分も不安な気持ちは同じにもかかわらず無言で背中をさすり支える友達の姿を、今も忘れません。

その年からしばらく経った時に、甚大な被害から復興を目指す福島県双葉郡内の町の教育長とお話をさせていただく機会がありました。その教育長は、「学校は地域の希望の光」とお話しされました。

「保護者の皆さん、そして地域のみなさんは、自分たちが避難所生活であつたり非常に困難な状況であつたりしても、未来のためにと**まずは子どもたちを学校に通わせようとしてくださる**んです。寝泊りする場所がなくても、食べるものが少なくても、ランドセルも何もなくても、何とか子どもたちを学校での学習に戻してやろうとしてくださる。**学校は地域の『希望』が集う場所なんだ**と感じました。だから、自分たちは頑張らなくてはならないんです。」と、当時の教育長は話されました。

当たり前が 幸せであること

学校に子どもたちが日々通学してくることは、今は当たり前です。でも、地域・保護者の皆様がこの青木に大切な子どもたちを通わせてくださっていること、学校は皆様が子どもたちに馳せる希望の思いが集う場所なのだということを改めて全職員で共有し、日々の指導にあたっていきたくと思っています。

毎日「おはようございます。」を言えて、「さようなら。」が言える、そしてまた翌朝には「おはようございます。」を互いに言えること、そんな日常がすばらしく幸せなのだということも、子どもたちには伝えていきたいです。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。